文明崩壊　―滅亡と存続の命運を分けるもの―

ジャレド・ダイアモンド著　楡井浩一訳
草思社　2012（草思社文庫）

所蔵館　　請求記号
本　　館：K/204/D71
神田分館：/204/D71

[著者プロフィール]
ジャレド・ダイアモンド
1937年生まれ
カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授
進化生物学者・生理学者・生物地理学者

嶋 根　克 己　**（人間科学部教授）**

私たちは毎日何の疑いもなく、呼吸し、水を飲み、食事を摂っている。それらはまさしく現代の物質文明の恩恵である。めったなことでは揺るがないと思われている現代社会であるが、過去の歴史を紐解いてみると、周囲に大きな影響をおよぼした大文明でさえいつか崩壊し、今ではその痕跡を探すのが困難になってしまった事例は数多くある。巨大なモアイを残したイースター島やアンコールワットを造ったクメール民族の栄華はどこに消えてしまったのか。

『文明崩壊』の著者であるジャレド・ダイアモンドの専門領域は生物学や生理学であるとされる。しかしその著作で発せられるメッセージは人文社会科学的かつ倫理的な内容を多分に含んでいる。著者の該博なフィールド体験と自然科学的な分析手法に裏付けられ、イースター島、ネイティブ・インディアン、マヤ文明、ヴァイキングによるグリーンランド支配、アンコール文明など数々の文明崩壊が論じられている。これらは脆弱な自然環境、長期的な気候変動、利己的な行動、政治的腐敗、近隣諸国との経済・文化的関係など多様な原因の組み合わせから、社会発展の袋小路に入り込み「文明の崩壊」という悲劇を招いたことを、さまざまなデータを駆使しながら描き出している。

ダイアモンドは、壮大な文明の興亡を自然史的な観点から再構成するばかりではなく、これらの社会がこうむったのと同様な危機が現代の文明社会にも蔓延しており、私たちの生活も、それらの危機と無関係ではないことを、きわめて大胆に描き出している。人類史的にみれば、いかなる社会の体系もいつかは崩壊するのかもしれない。それを座して待っているのではなく、持続可能な状態で次の世代に受け継いでいくために、私たちは何をしなければならないのか、何をしてはならないのか。そんなことを深く考えさせられる書物である。

なぜヨーロッパ文明が短い時間に世界を制覇できたのかという問題に挑戦した『銃・病原菌・鉄：1万3000年にわたる人類史の謎』（上・下）（草思社文庫）も同じく大著であるが、人類がどのような道のりを歩いて現在にまでたどり着いたのかを知るためにも、学生時代に併せて読みたい大著である。